

第 13 期(令和 4 年度)事業報告書

自 令和 4 年 4 月 1 日

至 令和 5 年 3 月 31 日

一般財団法人住環境財団

I 現況及び概要

1. 事業内容

(1) 目的

地域社会への貢献という理念に基づき、環境活動に対する助成・支援を行うことを目的とする。

(2) 事業の範囲

上記の目的を達成するために以下の事業を行う。

- 1) 助成・支援に関する事業
- 2) 環境教育に関する事業
- 3) 前2号に関連する人材の育成に対する事業
- 4) 不動産の賃貸、貸与又は管理
- 5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

II 実施事業の概要

1. 助成・支援事業

当年度に助成金を支払いした事案の実績報告

No.	助成機関名	助成金額	テーマ
(1)	東京大学	10,000 千円	メムアグリプロジェクト(継続)
(2)	一般社団法人大樹自然機構	20,000 千円	パドックパラダイス計画
(3)	一般財団法人 アジア・パシフィック・イニシアティブ	20,000 千円	「ウクライナ戦争と世界のグリーン・エネルギー危機」シンポジウム開催
(4)	東京大学	20,000 千円	小石川植物園の整備(日光分園含む)
(5)	東京大学	5,000 千円	メモリサーチキャンパス
(6)	京都大学	4,500 千円	博物館収容環境整備(継続)
(7)	神戸大学	1,500 千円	高齢者施設の環境整備(継続)
(8)	公益財団法人山階鳥類研究所	800 千円	賛助会員(継続)
	合計	81,800 千円	

(1)メムアグリプロジェクト <助成先:東京大学>

北海道の帯広近郊はほとんど果樹が育たない地域として知られている。

東京大学の生産技術研究所と大学院農学生命科学研究科の協同で工学と農学の知を集結し、この地域で実現可能な、果樹や樹木の育成、永続可能な農業、湿原回帰による耕作放棄地の再生に関する研究を実施する。

1) 実施概要

- ① 5/25～26 にかけて視察を実施。昨年度、試験的に植栽したブルーベリー・サ

ルナシ・ペカンの苗木の状況を確認。獣害や寒さによる枯死被害が一部確認されたが、引き続き栽培可能と判断し、苗木(シーベリー等)の追加植栽を実施。

- ② 寒さ対策のため、ペカン 30 苗を埼玉県内にて保管中。令和 5 年 5 月下旬に移送し、屋内走路内側(屋内走路の内側は、周りが囲まれており、獣害のリスクが低いため)に植栽予定。
- ③ 植物の生育不良が生じていた果樹園エリアの土壌改良のため、6 月～7 月に耕耘とえん麦のすき込みを実施した。
- ④ 9/3～9/8 に圃場と周辺のシードバンクによる植生回復ポテンシャルを把握するため、植生調査および土壌サンプリングを実施。
- ⑤ 11/18～11/20 に UAV 撮影により LiDAR データおよび空中写真を取得。
- ⑥ 数値標高モデル(DEM)、水みち図等の作成により、地形・水文解析を実施。
- ⑦ 植生調査データおよび空中写真判読により相観植生図を作成。
- ⑧ 東大農学部温室内にてサンプリングした土壌を撒き出し、発芽試験を実施。

2) 研究メンバー

大学院農学生命科学研究科

堤伸浩(研究学長・教授)、藤原徹(教授)、大黒俊哉(教授)、
岩田洋佳(准教授)、本多親子(准教授)

空間情報科学研究センター

瀬崎薫(教授)

生産技術研究所

大石岳史(准教授)、巻俊宏(准教授)、沖一雄(特任教授)

3) 今後の予定

令和 5 年 4 月 18 日に現地で会合を行い、これまでの研究結果を受けた今後の方針について協議する。

令和 5 年 5 月下旬に現在埼玉で越冬させているペカン苗の植栽を行う。また、ランドスケープデザインを考慮した、土地・生物的ポテンシャルの評価、利用可能な植物資源の探索を継続実施予定。

4) 助成金額 10,000 千円 (令和 4 年 5 月に支払い)

(2) 人馬共生の為のパドックパラダイス計画 <助成先:(一社)大樹自然機構>

大樹町にある元競走馬の育成牧場タイキトレーニングセンターの跡地で「パドックパラダイス」としての理念に基づき、馬の育て方や環境を整備することで、人と馬、両者にとっての理想的な暮らしを実現する。パドックパラダイスでは馬の自然放牧モデルを主とし、野生馬に近い環境や生活スタイルにすることで、人間に飼われた馬よりも怪我や病気が少なく健康かつ丈夫に生きることが出来ることを証明している。そこで元競争馬の育成牧場の飼育環境をパドックパラダイスの理念に基づき、馬が自然に放牧できる環境を再整備するとともに、そこに集う人間にとっても楽しく安全に馬との時間を過ごす事ができるような環境づくりを目指すことにより馬の健康状態を向上させるとも

に人的コストを削減させることに加えて、施設内で人馬共生の理想形を社会に向けて発信できるようにしていきたい。

1) 実施概要

助成先責任者が病氣療養中のため一旦延期。

2) 助成金額 20,000 千円（令和 4 年 7 月に支払い）

(3) 「ウクライナ戦争と世界のグリーン・エネルギー危機」シンポジウム開催

＜助成先：（一財）アジア・パシフィック・イニシアティブ＞

ロシアのウクライナ侵略とそれに基づく経済制裁は、エネルギー安全保障と温室効果ガス削減に向けた気候変動対策の両立の難しさを明らかにした。権威主義国家からのエネルギー輸入依存度を低下させつつ、気候変動対策を積極的に推進するためには、水素・アンモニア・原子力といったエネルギー源の活用や高効率蓄電池の開発など、あらゆる側面からのグリーンイノベーションが求められる。グリーンは、技術革新・イノベーションと、そこに対する投資がカギであり、その担い手である起業家の役割が決定的に重要となる。そのため、この分野における起業家の連携を強化することが重要と考えられる。

また、エネルギー安全保障と気候変動対策は、地球規模での対策が不可欠であり、特にアジアの新興国がこの課題にどう対処するかは極めて重要な課題である。米国や欧州と全く異なるエネルギー環境を有する日本は、カーボンニュートラル戦略をどのように描いていくべきなのか。日本とアジア、なかでもインドと東南アジアとの間のグリーン・エネルギー戦略連繋は、日本の歴史的役割となる。

本プロジェクトは、国内外の有識者を招いたシンポジウムの実施を通じて、(1)ウクライナ戦争によってもたらされたグリーン・エネルギー危機に際しエネルギー安全保障と気候変動対策を両立させるためにはどのように対応すべきなのか、(2)ポスト・ウクライナ戦争時代に、どのようなグリーンイノベーションを進めることで、持続可能な形でのエネルギー安全保障と気候変動対策が実現できるのか、を題材に、政府や民間企業が取るべき戦略を検討し、国民の理解と議論の深化に資することを目的としている。そのため、アジア太平洋のグリーン・エネルギー戦略連繋を探求する。

1) 実施概要

助成先の（一財）アジア・パシフィック・イニシアティブが（公財）国際文化会館と合併（合併後は（公財）国際文化会館）したため運営方法が変わり、今回のテーマは白紙となってしまったが、来年度に今回の助成金による別テーマでのイベント開催の要望があったため、変更申請をお願いしている（申請受付中）。

2) 今後の予定

来年度に「アジアにおけるサステナビリティ・イノベーションの接続」、「気候危機とサステナビリティ領域の政策起業（特に気候テクノロジー）」についてのイベント開催を予定している。

3) 助成金額 20,000 千円（令和 4 年 6 月に支払い）

(4) 小石川植物園の整備 <助成先:東京大学>

小石川植物園は、江戸幕府の御薬園を前身とする、日本を代表する植物園として国の名勝及び史跡に指定されている。また、植物学の研究・教育を目的に、国内外で収集された約 4,000 種の植物を栽培している。しかし、経年による庭園の荒廃や施設の老朽化が著しく、名勝及び史跡としての価値や学術的に貴重な植物の維持に大きな影響が及んでいる。大学の一部局の付属施設予算では賅いきれないこれらの課題を解決する。

1) 実施概要

- ① 研究温室 12 号室 3 部屋のうち、中央と西側の 2 部屋の天窗、引き戸、飛び出し窓に繋がるモーター、チェーン及び制御盤の交換を実施
- ② 小石川植物園のホームページリニューアル

2) 実施メンバー

東京大学 川北篤(園長・教授)他

3) 今後の予定

今回で 8 百万円支出、残り 12 百万円を研究温室改修と日光分園のホームページリニューアルに使用する。他にも改修対象が多数あるため、継続的に助成の予定。

4) 助成金額 20,000 千円（令和 4 年 10 月に支払い）

(5) メムにおけるリサーチキャンパス構築のためのFM基礎研究 <助成先:東京大学>

多様な地域それぞれがもつ固有の価値を資源として捉えることが、今後の社会に強く求められている。このためには、ある固有の地域に、汎用解ではない景色をみようとする「研究者」が集まり、その土地固有の資源を再読し、理解し、生まれてくる多様な情報をさらに資源化し、共有可能な形にしていく活動が求められている。しかしながら、実際の学术界においては、多様な研究課題を持って地域に研究者がそれぞれ来訪し、それぞれの目的を達成していくことはあっても、統合的な観点からその地域固有の資源に関して言及することは少ない。このためには、多様な専門言語を持って長い時間軸上に散在する知識をまとめる母体の存在が必要であると考えられる。

このような活動母体となる「リサーチキャンパス」を構築し管理するにあたり、既往の物理的な施設管理のみならず、そこから生まれる学術知識を同時にバーチャルに管理していく、価値創出型のファシリティ・マネジメント(FM)の概念が必要とされるが、多くのFMは、未だ物理面のみでの保全的な役割と考えられることが多く、まずはFMの概念をより深く捉えるための事業分野の再読が必要と考えられる。

1) 実施概要

価値創造型FMの基礎研究を開始するため、2022年度、北海道広尾郡大樹町芽武にて展開するMEMアースラボの活動敷地において研究準備のためのフィールドワークを実施し、必要となる基礎方法論を開拓する。具体的には複合的な学術分野のためのリサーチキャンパスが必要とするFM要件を整理する。その上で物理的なFM要素では賅うことの出来ないバーチャルFMの範疇とは何なのか把握する作業を行い、その全体の中での位置付けを定義した。

- ① 実施体制の計画
- ② 現地におけるフィールド調査
- ③ FMの基礎方法論の総括

2) 研究メンバー

東京大学生産技術研究所 森下有(特任講師)

3) 今後の予定

実際に滞在プログラム:リサーチ・リトリートを運用し多様な分野の研究者の受け入れ、また国内外の研究者滞在による教育プログラムを通し、FM実践の実データを用いたFM研究に展開することで、今年度の階層化したリサーチキャンパスのアーキテクチャ(仕組み)を更新、検証する。

4) 助成金額 5,000 千円 (令和5年3月に支払い)

(6) 博物館の収蔵・展示スペースの空気温湿度環境最適化と省エネルギーに向けた研究

〈助成先:京都大学〉

関西に建つ博物館を対象として、資料の保管・展示環境の状態と空調換気設備のエネルギー使用の実態を把握し、その結果に基づいて望ましい収蔵・展示環境とその制御の考え方の確立を目的とする。特に、大きな空間における温湿度と空気質の分布性状に注目し実態調査と気流解析を行い、空調吹出・吸込との関係を明確にした上で、空調システムの最適設計・制御を試みる。また、展示ケース内や収納容器内の温湿度の実態を明らかにするとともに、解析モデルによる再現を試みる。

1) 実施概要

- ① 収蔵スペース、展示スペース環境の実態調査
- ② 展示室の空調・換気システムの運転の実態調査
- ③ 展示スペースの気流、温湿度、空気質の解析
- ④ 換気・空調システムの最適設計、最適制御に関する検討
- ⑤ 収蔵ケースおよび展示スペース内の温湿度環境の実態調査

2) 研究メンバー

京都大学 銚井修一(名誉教授)

工学研究科 小椋大輔(教授)、伊庭千恵美(准教授)

3) 助成金額 4,500 千円 (令和 4 年 7 月に支払い)

(7) 寒冷地の高齢者施設を対象とした換気が室内の空気質・温湿度・エネルギー消費量に及ぼす影響に関する研究(継続研究)

— 人由来の汚染物質の移動性上の予測方法の検討 —

＜助成先: 神戸大学＞

高齢者施設内での空気の移動に伴い、熱、水分、におい、ウィルスなどが移動していると考えられる。これを適切に制御し、高齢者施設における空気質、温湿度を適切な状態に保ち、また、良好な室内環境を保つ為のエネルギー消費量を抑えることは重要な課題である。

これまでに、高齢者施設内の温度・湿度・二酸化炭素の分布、換気扇の運転状況を長期にわたり測定し、換気力学を用いて室内での空気移動の解析を行ってきた。さらに、これに基づき、室内環境の問題点の改善提案を行うとともに、高齢者施設の人由来の汚染物質の移動の予測を行ってきた。これまでの研究では、人由来の汚染物質の移動を計測する際、多数空間での換気計算における一室内の汚染物質濃度を一様として扱ってきたが、実際には濃度の分布は一様ではないことが想定される。

そこで、本研究では、人由来の汚染質としてウィルスを想定し、高齢者施設の共用空間を対象として、汚染物濃度の分布を数値流体力学により解析し、共用室に滞在する利用者の感染リスクの評価を行う。換気方式と空調方式を変更した場合を想定し、現状の場合の結果と比較し、感染リスクの違いを明らかにする。

1)実施概要

- ① 他室から流入する汚染質の濃度分布に関する数値流体解析
- ② 室内で発生する汚染質の濃度分布に関する数値流体解析

2) 研究メンバー

神戸大学大学院工学研究科 高田暁(教授)

3) 助成金額 1,500 千円 (令和 4 年 7 月に支払い)

(8) 山階鳥類研究所賛助会員(継続研究) <助成先:(公財)山階鳥類研究所>

1) 助成金額 800 千円 (令和 4 年 6 月に支払い)

当年度以前に助成金を支払いした事案の実績報告

No.	助成機関名	助成金額	テーマ
(1)	公益財団法人 国際文化会館	10,000 千円	シンポジウム助成
(2)	東京大学	30,000 千円	赤門脇トイレプロジェクト
(3)	東京大学	8,000 千円	メムにおけるリサーチ・リトリート研究

(1) 連続シンポジウム Architalk～建築・デザインが社会をどの様に変えるのか

＜助成先:(公財)国際文化会館＞

「建築×難民」、「建築×教育」、「都市×環境」、「デザイン×医療」など建築を異なる分野の視点から考え、社会の為にどのように生かすことができるのか考える為のシンポジウムを年2回、3年間のシリーズとして開催する。第一線で活躍する建築家や専門家をスピーカーに招き、今後 20 年で建築・デザイン・都市を通じてどのような未来を創造できるのか、特に次代を担う若者に考えるための場を提供する。(令和 2 年 2 月に助成金 10,000 千円)

1) 実施概要

ニューヨークに本部を置くアジア・カルチュラル・カウンスル(ACC)との共催にて、国際的に活躍する建築家やアーティスト、研究者を特別ゲストに迎えた全 6 回のトークセッションをウェビナー形式で配信し、建築の魅力のみならず、環境やテクノロジー、歴史、アート、コミュニティなど、さまざまな視点から建築の果たす役割や可能性について考えた。第一線で活躍する建築家や専門家をスピーカーに招くことにより、今後 20 年で建築・デザイン・都市を通してどのような未来を創造できるのか、特に次代を担う若者が考えるための場を提供。Youtube 動画にて日本語あるいは英語字幕を付与して配信した。本来は前々年度開催予定だったが、コロナの影響で1年延期して実施。今年度に最後の第六回を実施した。

主催:(公財)国際文化会館

共催:アジア・カルチュラル・カウンスル

協賛:清水建設、日建設計

助成:住環境財団,MRAハウス,東京倶楽部

第一回「変わる建築家の社会的役割

配信開始日:2022 年 2 月 17 日

第二回「アート・建築・社会」

配信開始日:2022 年 2 月 24 日

第三回「建築からみる東南アジアの近代」

配信開始日:2022 年 3 月 10 日

第四回「建築・デザインを通してコミュニティを創る」

配信開始日:2022 年 3 月 17 日

第五回「建築・都市デザインにみる伝統とエコロジー」

配信開始日:2022 年 3 月 24 日

○第六回「東南アジアの都市、環境、建築」

配信開始日:2023 年 3 月 30 日

スピーカー:ヴォー・チョング・ギア(VTNアーキテクト代表、建築家/ベトナム)

モデレーター:田村順子(明治大学准教授)

(2) 赤門脇トイレプロジェクト <助成先:東京大学>

大学キャンパスが兼備すべき公共性や保健性を考える契機として捉え、東京大学に所属する学生・研究員を対象にインクルーシブな社会を象徴する施設として「小さなト

イレ」のデザインコンペを実施する。(令和3年1月に助成金 30,000 千円)

令和3年度中に建設予定だったが、東京都との行政手続きに時間を要し、令和5年7月頃の着工予定となった。

(3) メムにおけるリサーチ・リトリート研究 <助成先:東京大学>

メムアースラボでフィールドワーク活動「資源再読」(音を介して芽武の環境を見つめ、読み解いていく、最終的には建築の形でアウトプット)を実施してきたが、学術的研究の意義と同時に、ホテルが担う地域のハブとしての役割を拡張することの意義、外部キュレーター(学術的専門知識をもって業務の管理監督を行う専門管理職)が可能にする研究成果の社会実装を具現化することの意義が重要視され始めた。学術機関単独の活動ではなく、複合主体により活動を実践することの可能性を助長するため、また、地域の継続的な社会活動体として敷設することを目的として、リサーチ・リトリート、今回は音を媒体とする研究者が普段の研究の枠組みからいったん離れ心身をリセットして新鮮な視点をもつ機会を与える、その関与者にはその新鮮さが提示する「新しい地域の読み方」を共通し、社会活動として具現化する仕組み、の通年プログラム化を行う。そしてより多様な分野の研究者が参加できる方法論探求すると同時に、地域の主体との更なる連携を図る。(令和3年5月に助成金 8,000 千円)

1) 実施概要

想定していなかったメムアースホテルの廃業があり、メムアースラボにて、建築という統合的な仕組みづくりの観点から、「リサーチ・リトリート」という独自の知識が場所に滞在する仕組み、研究者滞在プログラムをプロトタイプし、その形式を題材に、地域における研究者の知見の役割と、持続可能な地域との関連性の構築に向けた情報マネジメントのありようについて検証した。

具体的には、研究期間中に8組の芸術家等にリサーチ・リトリートへの参加を依頼し、研究滞在と地域での再読フィールドワークを実施した。その中から個別の研究内容とは別に、滞在者が如何に場所とのつながりをもったか、どのような方法で滞在することがそれぞれの持ち込む知見を、現地の可能性の束とつなぐことができるかを検証し、リサーチ・リトリートの役割・運営に必要となる能力を検証した。

2) 研究メンバー

東京大学生産技術研究所 森下有(特任講師)

3) 今後の予定

リサーチ・リトリートを運営するための施設側の要件に関して検証を行うことで、このようなアーキテクチャ(仕組み)と物理的施設の関係性を模索していく。

Ⅲ 評議員及び役員に関する事項(令和5年3月31日現在)

1 評議員

役名	氏名	就任年月日	区分
評議員	坂村 格	令和 4年5月18日	非常勤
評議員	河野 雄介	令和 4年5月18日	非常勤
評議員	眞田 容子	令和 4年5月18日	非常勤

2 理事及び監事

役名	氏名	就任年月日	区分
理事長	高畑 久明男	令和 4年5月18日	常勤
理事	佐久間 司	令和 4年5月18日	常勤
理事	潮田 洋一郎	令和 4年5月18日	非常勤

監事	和田 芳幸	令和 1年5月17日	非常勤
----	-------	------------	-----

IV. 理事会・評議員会の開催状況

(1) 理事会(通常)

日時: 令和4年4月28日

開催場所: ZOOM

決議事項: 第1号議案 第12期(令和3年度)事業報告の承認の求める件
: 第2号議案 第12期(令和3年度)財務諸表等の承認を求める件
: 第3号議案 定時評議員会招集の承認を求める件
: 第4号議案 基本財産の株式に関する議決権行使の承認を求める件

出席等: 決議に加わることの出来る理事3名中3名が出席し、議案に対して全員一致をもって承認可決された。

(2) 評議員会(定時)

日時: 令和4年5月18日

開催場所: 書面決議

決定事項: 第1号議案 第12期(令和3年度)事業報告書の承認を求める件
第2号議案 第12期(令和3年度)財務諸表等の承認を求める件
第3号議案 任期満了に伴う評議員選任の承認を求める件
第4号議案 任期満了に伴う理事選任の承認を求める件

出席等: 提案書に対し、評議員全員の書面による同意の意思表示により、評議員会の決議があったものとみなされた。

(3) 理事会(臨時)

日時: 令和4年5月31日

開催場所: 書面決議

決議事項: 第1号議案 代表理事選任の件

出席等: 提案書に対し、理事全員の書面による同意の意思表示により、理事会の決議があったものとみなされた。

(4) 理事会(臨時)

日時: 令和4年6月15日

開催場所: 墨田区両国 住環境財団事務所

決議事項: 第1号議案 一般財団法人アジア・パシフィック・イニシアティブへの研究助成の承認を求める件

出席等: 提案書に対し、決議に加わることの出来る理事2名中2名と監事1名が出席し、議案に対して全員一致をもって承認可決された。

(5) 理事会(臨時)

日時:令和4年11月19日

開催場所:北海道広尾郡大樹町 北洋ガーデンファーム事務所

決議事項:なし、代表理事の職務執行状況報告のみ

出席等:理事3名中3名出席し、代表理事が報告して終了した。

(6) 理事会(通常)

日時:令和5年3月22日

開催場所:千代田区永田町 潮田理事事務所

決議事項:第1号議案 令和5年度事業計画の承認を求める件

:第2号議案 令和5年度正味財産増減予算の承認を求める件

:第3号議案 令和5年度資金計画及び設備投資の見込みについて

出席等:決議に加わることの出来る理事3名中3名が出席し、議案に対して全員一致をもって承認可決された。